CASBEE名古屋　評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2014年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2014　|使用評価ソフト：CASBEE_Nagoya_2014(v.1.22)

1-1 建物概要

建物名称	(仮称)プレサンスロジェ千代田三丁目	階数	地上15F
建設地	愛知県名古屋市中区千代田三丁目	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域、駐車場整備地	平均居住人員	112 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2017年5月　予定	評価の実施日	2015年10月23日
敷地面積	445 ㎡	作成者	
建築面積	234 ㎡	確認日	2015年10月23日
延床面積	2,575 ㎡	確認者	

1-2 外観

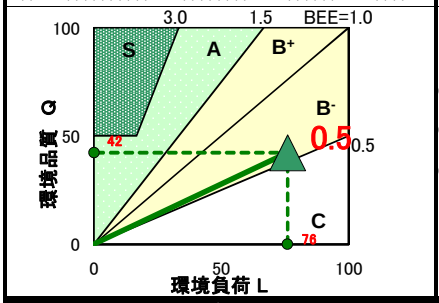
外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

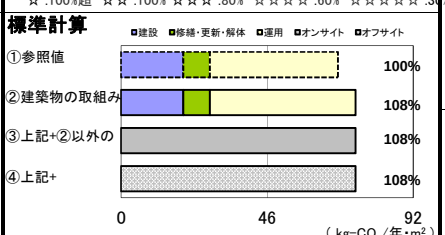
= BEE 0.5

★ :S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B-: ★★ C



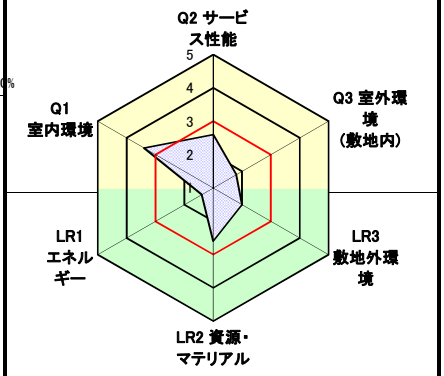
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

☆ :100%超　☆☆ :100%　☆☆☆ :80%　☆☆☆☆ :60%　☆☆☆☆☆ :30%



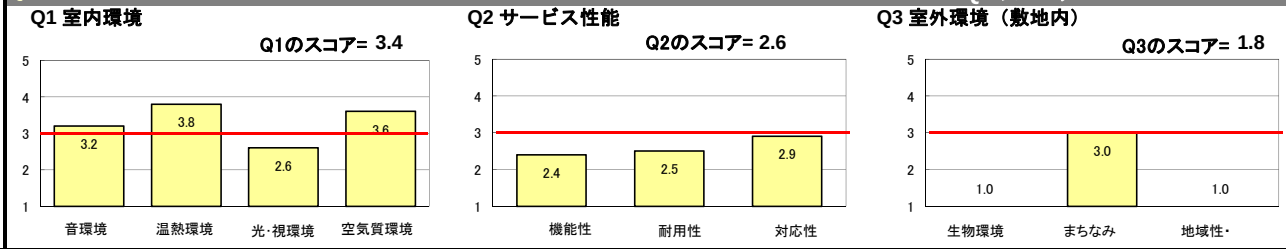
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

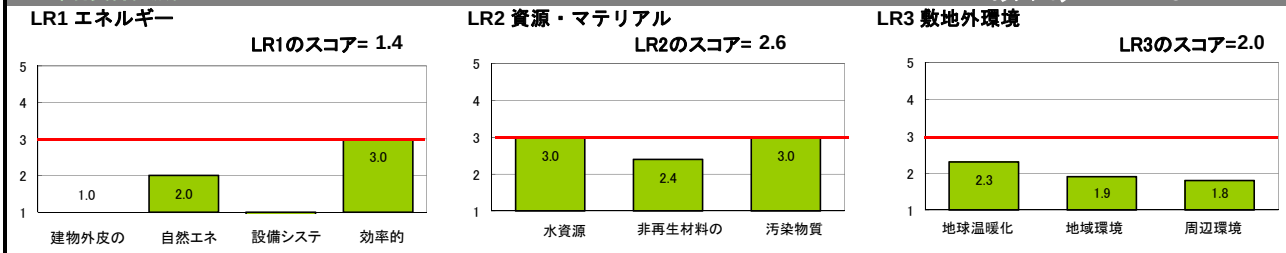


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.6



LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 1.9



3 設計上の配慮事項

総合

注）　設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。
・居住者の住まいやすさや意匠的な満足を得られるものを求めつつ、法令順守を原則に設計をすすめている。

その他

注）　上記の６つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてＣＡＳＢＥＥで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

Q1 室内環境

注）　「Q1　室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。　・建築基準法対象外となる建築材料をほぼ全面的に採用し、室内環境に対する懸念を減らすよう配慮した。

Q2 サービス性能

注）　「Q2　サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。　・近年の一般的な設備仕様が満たされるよう配慮して設備性能を決定をしている。

Q3 室外環境（敷地内）

注）　「Q3　室外環境（敷地内）」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。　・特別な周囲環境への配慮はおこなっていないが、意匠計画において特別浮いた存在にならないように意匠決定を行っ

LR1 エネルギー

注）　「LR1　エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。　・特別な配慮はおこなっていないが品確法における等級3相当程度の断熱処理をおこなう。

LR2 資源・マテリアル

注）　「LR2　資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。　・特別な配慮はおこなっていないが最低限法順守にしたがうようにしている。

LR3 敷地外環境

注）　「LR3　敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。　・特別な配慮はおこなっていないが最低限法順守にしたがうようにしている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される